



研究者名※	衣川隆生	学位※	学術修士
所属※	文学部 日本文学科	職名※	教授
連絡先	kinugawat@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/read0047512">https://researchmap.jp/read0047512</a>		
研究分野※	日本語教育		
研究キーワード※	教師論・教室研究、教授法・カリキュラム、第二言語習得理論		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中上級日本語学習者のモニタリングの基準の意識化と内在化を目指した教室活動の開発(基盤研究(c)(課題番号 215203535)研究代表者(2009-2011年度))</li> <li>・留学生の作文に対する主観的評価と相関関係を持つ分析的・客観的な量的指標の抽出(基盤研究(c)(課題番号 16520313)研究代表者(2004-2006年度))</li> </ul>		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛知県地域日本語教育推進 検討委員」(愛知県)(2021年4月-2022年3月)</li> <li>・「新あいち多文化共生推進プラン(仮称)検討会議」委員(愛知県)(2017年4月-2018年3月)</li> <li>・「愛知県日本語教育推進会議」委員(愛知県)(2016年10月-2017年3月)</li> </ul>		
受賞歴	特になし		

研究領域	日本語教育学・日本語教育方法論	(SDGs)
研究テーマ※	構成主義的教育観に基づく言語教育の方法とその効果	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>現在国内外で日本語を学習する日本語学習者は増加の一途をたどっている。その学習目的の一つとして、日本への留学、さらには日本国内での就職、または海外での日系企業への就職が挙げられる。日本国内で就職活動をする際、キャリアプランニングのセミナー等にも参加することが多いが、そこではまず自己分析が求められる。自己分析活動においては、自分自身のライフステップにおける出来事、行為を振り返り、それぞれのステップで何を感じ、どのような選択を行ったかを内省し、その内省を通して自身の人生をライフストーリーとして語り、その語りに基づいてキャリアパスを考える。</p> <p>このような自己分析能力は、就職活動をする段階だけではなく、自律した言語学習者として日本語学習プランを立案する際に求められる能力でもあり、自分自身のキャリアプランやライフプランにおいて日本や日本語学習というものをどのように位置づけていくかを認識するためには非常に重要な能力である。</p> <p>研究においては、日本語学習者がどのように自己分析を行い、自分自身のライフストーリーを語り、その経験をとおして、どのように自身のキャリアパスを認識し、キャリアプランを立案していくかを明らかにすることを目的とする。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>就労を希望する学習者、就労者を対象とした教室活動を実践し、その実践を通して学習者の協働作業時の対話資料、教室活動終了後のパフォーマンス資料を収集し、その資料に基づいて学習者がどのように日本語によるキャリアパスを実現しているかを質的に分析する。その結果を活用して、多様な背景を有する就労を目的とした日本語学習者を対象とする教員の研修のプログラムを構築することを目的とする。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>研究では、ライフストーリー研究の知見、手法を参考としつつ、日本語学習者が他者のライフストーリーを解釈する際の媒介、自分自身のライフを振り返り内省するための媒介としてライフ・ライン・チャートを用い、他者への語りを用いる。収集した資料を分析することで、日本語学習者がどのようにキャリアパスを意識化し、そのキャリアパスを実現するためにどのように学習を進めていくかのモデルを作成する。</p>	

本研究関連 特許・論文等	・衣川 隆生, 読み手の人生の軌跡が他者のライフストーリーの解釈に与える影響—ライフラインチャートを用いた解釈の可視化—, 日本語教育方法研究会誌, 2020-2021, 27 巻, 1 号, p. 48-49 ・衣川 隆生, ライフプランに日本語学習プランを位置づけて行う自己紹介, 日本語教育方法研究会誌, 2019-2020, 26 巻, 2 号, p. 80-81
共同研究・外部機関 との連携への期待	